

(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678
 ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230 いちご薬局 TEL055(946)6430

薬が飲みにくくなったら、錠剤粉碎よりも便利 簡易懸濁法

簡易懸濁法(かんいけんだくほう)とは！

錠剤・カプセル剤をそのまま温湯(55℃)に溶かすことです。もともとはチューブから投与方法として開発されましたが、口から飲む場合も可能で服用しやすくなります。

錠剤粉碎(ふんさい)の問題点

1. 光・温度・湿度などの安定性が壊れる可能性	4. 本来の薬剤の作用・効果等を変えてしまう可能性
2. 味・匂いの変化、刺激感が発生することある	5. 粉碎後に一部薬剤の減量や中止に対応できない
3. 調剤の薬剤ロスや他薬との作用に変化が発生する可能性	

簡易懸濁法は上記の問題点をほぼ回避でき、ほとんどの薬剤は作用や効果に影響することがありません。粉碎するよりも簡易懸濁可能な薬剤のほうが多くあります。

錠剤は有効成分が体内で吸収されなくてはなりません。そのため崩壊剤が添加されます。つまり錠剤は崩壊するように製造されています。

簡易懸濁法に適さない薬剤

薬剤の種類	薬剤例	理由・対処
多くの徐放性製剤(作用が持続するように工夫した薬剤)	ニフェジピンL	作用の持続性が壊れてしまう。 作用が一時的に強くでる。
腸溶錠(胃で溶けずに腸で溶けるようにして薬の分解や胃荒れ防止した錠剤)	ラベプラゾール Na 錠 バイアスピリン錠	胃で溶けた状態のため腸溶の特性が壊れる。 バイアスピリン錠は亀裂を入れてから溶解する。または別薬剤に変更する。
配合変化を起こす可能性のある薬剤	酸化マグネシウムとドパコールなどのパーキンソン病薬	黒色や褐色に着色する。 それぞれの薬剤を別々に溶かす。

カプセル剤や粉薬・顆粒剤にも適さない薬剤があります。
 (酸化マグネシウム:錠剤は溶けるが顆粒剤は溶けない)

※この方法を実施する場合は必ず医師・薬剤師に相談して下さい。

適否判断や剤形変更などを検討します。

「けんだくボトル」による方法

「けんだくボトル」販売価格：1個 100 円

内服用としてもチューブによる栄養用としても使用できます。

①ボトルのキャップを開け1回分の薬剤を入れる

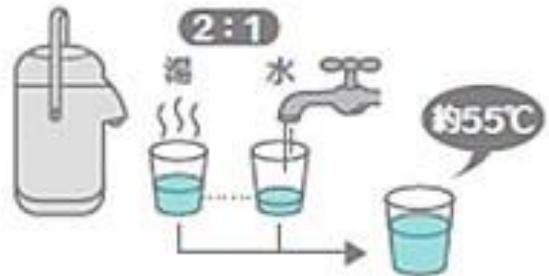
フィルムコーティングされた錠剤は10分で溶解しないので、入れる前にすり棒などで叩いて亀裂を入れます。



②55℃の温湯を作る

【方法1】「ポットの熱湯(90℃位) 2 : 水道水 1」

【方法2】ポットを60℃設定にして、コップ等に注ぎ、4～5分程さますか、水を少し加える。



③約55℃の温湯約20 mL をボトルに入れる

(飲みきれる量で)
ふたをして、よく振る
(10回程度)



④10分間放置する

(この間に薬剤が崩壊して濁り水のようになります)

⑤再度よく振って、コップ等に液を移す

水か白湯で飲みやすい量にする。
液にトロミをつけて服用してもよい。



※家庭での簡易方法

懸濁ボトルを使用しない場合は、コップに薬剤を入れ、55℃の温湯を入れて、スプーンで混ぜ、10分間放置して薬剤を溶かします。

